

近世仏塔の意匠と構造

——近畿地方の遺構——

濱 島 正 士

-
- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 遺構の建立年代と工匠 | 3. 各部の様式手法 |
| 2. 柱間寸法と柱長さ | 4. 内部の状況と組上げ構造 |
-

論文要旨

近畿地方には、近世に建立された仏塔が五重塔・三重塔・多宝塔あわせて46基残されている。本論は、それら遺構の現地調査の結果にもとづき、規模・形式・構造・意匠などについて、地域性を考慮しながら近世仏塔の特色を明らかにしようとするものである。

1. 遺構の建立年代と工匠
遺構の分布状況、建立年代、建立にあたった工匠（大工・彫物師・鋳物師）についての考察
 2. 柱間寸法と柱長さ
柱間寸法と枝割の関係、柱間寸法の逡減（三重塔）、初重軸部の縦横の比例関係についての考察
 3. 各部の様式手法
軸部・組物・軒・柱間装置など細部の様式手法についての考察
 4. 内部の構成と組上げ構法
初重内部の柱・来迎壁・仏壇・天井などの構成、三重塔の組上げ構法についての考察
- 近世仏塔については、全国を東北・関東、中部、近畿、中国・四国・九州の4地区に分け、地区ごとに調査・研究を行ってきたもので、本論はその第4編にあたり、これで一応完了する。

1. 遺構の建立年代と工匠

近畿地方には近世の仏塔が46基残されている。その内訳は五重塔2基、三重塔15基、多宝塔28基、多宝大塔1基で、多宝塔が目立って多い。これを県別にみると、滋賀県三重塔2基・多宝塔1基、京都府五重塔2基・三重塔6基(うち1基はもと兵庫県所在)・多宝塔7基、大阪府三重塔1基・多宝塔3基(うち1基はもと和歌山県所在)、兵庫県三重塔5基(うち1基はもと三重県所在)・多宝塔11基(うち1基はもと奈良県所在)、奈良県多宝塔3基(うち2基はもと京都府と和歌山県所在)、和歌山県三重塔1基・多宝塔3基・多宝大塔1基となる。このほかにも、近年大阪府と兵庫県から埼玉県へ移された多宝塔がそれぞれ1基あった。京都府に全部で15基もの塔が残されているのは当然といえようが、兵庫県にも14基の塔が残されており(県外から移建されたものを除く)、そのうち多宝塔が10基を占めているのは意外である。多宝塔は、中世の遺構でみると和歌山県に多いが、近世の遺構では和歌山県には県外へ移されたものと大塔を含めても6基しかない。以下、未調査の長谷川邸三重塔を除く45基についてみていく。

建立年代については、桃山時代4基、江戸時代初・中期23基、江戸時代後・末期18基となり、ほぼ近世を通して各時期の遺構が残されている。そのうち、建立年次が明確なものは36基ある。また、棟札や墨書・刻銘によって工事を担当した大工・彫物師・鋳物師が判明するのは、大工名が分かるもの17塔、彫物師が分かるもの1塔、鋳物師が分かるもの10塔となる。大工については、17塔に名の出ている大工棟梁のうち、およその住所が分かるのが10名あって、京都市の清水寺三重塔(寛永9年・1632)は大坂、同じく京都市の清涼寺多宝塔(元禄15年・1702)は江戸神田、京都府舞鶴市の本隆寺多宝塔(宝暦元年・1751)は「当国」、兵庫県加西市の酒見寺多宝塔(寛文2年・1662)と奥山寺多宝塔(宝永5年・1708)は宇仁大工村、兵庫県三木市の伽耶院多宝塔(正保4年・1648)は明石と三木、同市の蓮花寺多宝塔(延享4年・1747)は西大沢村(播磨美囊郡)、同県三田市の蓮花寺多宝塔(文化9年・1812)は昆陽村と上槻村(摂津川辺郡)、同県多可郡黒田庄村の莊殿寺多宝塔(正徳5年・1715)は丹波氷上郡久下谷川村、同県氷上郡柏原町の柏原八幡神社三重塔(文化12年・1815)は「当所大工町」となっている。これで見ると、他国の大工が建てたのは、清水寺三重塔と清涼寺多宝塔だけで、ほかは地元または近在・同国の大工が建てている。清涼寺多宝塔は江戸開帳の時の勧進により江戸で切り組んで運んだものと伝え、鋳物師も江戸の住人である。

彫物師が知られるのは柏原八幡神社三重塔だけで、「当所」住人となっている。彫刻の多い関東地方の塔でも彫物師の氏名が分かるのはわずかであったが、近畿地方の塔はもともと彫刻が少ないから、1塔だけなのも当然であろう。柏原八幡神社塔でも彫刻はそれほど多くはなく、彫物師の手になったと思われるのは浮彫付の板支輪(初重)、竜の隅尾垂木(初重・二重)、養

股（初重）ぐらいである。

塔には、銅または鉄の铸件として高欄擬宝珠のほかにも相輪があるので、铸件師の活躍の場は仏堂・神社本殿・門などよりも多い。铸件師の氏名が知られる10塔では、铸件師の住所も同時に分かり、京都市の真正極楽寺三重塔（天保14年・1843）は京三条釜座⁽¹⁾、清涼寺多宝塔は武江（江戸）、本隆寺多宝塔は近江栗太郡添村、奥山寺多宝塔は姫路野里、兵庫県加東郡社町の朝光寺多宝塔（宝永7年・1710）は播磨三木郡吉川谷安場村、荘厳寺多宝塔は同国多可郡茂利邑、兵庫県氷上郡青垣町の高源寺三重塔（寛政11年・1799）と同県洲本市の千光寺三重塔（文政13年・1830）・蓮花寺多宝塔（文化2年・1805）は大坂の铸件師である。大坂市の勝鬘院多宝塔（元和6年・1620）も住所は記していないが、名前から大坂であることが分かる。このように、铸件師については、大坂の铸件師が兵庫県下の塔をいくつか手掛けているが、他地方でも徳島県板野郡土成町の熊谷寺多宝塔（安永3年・1774）に大坂の铸件師の名前があった。

2. 柱間寸法と柱長さ

五重塔は2基しかないので比較検討はできないが、教王護国寺塔（京都府、正保元年・1644）は初重総間が31.28尺あって、現存する近世以前の塔の中で最大の規模をもっている。これは平安時代創建以来の規模を踏襲したものであろう。仁和寺塔（京都府、寛永21年・1644）も初重総間19.52尺の大型の五重塔である。両寺とも真言宗の伝統ある大寺院の塔であり、金堂はじめ他の堂宇との釣合いも考慮されたと思われる。

(1) 三重塔

14基について初重総間をみると、8尺級と9尺・10尺が各1基、13尺級が1基、14尺級が3基、15尺が2基、16尺級が3基、17尺級と20尺級が各1基となり、比較的大型のものが多い。このうち、20尺級の最大規模をもつ高源寺塔は平面寸法は大きいものの高さが低く、組物も特殊な形式で、他の塔と同列には論じられない。したがって、最大の三重塔は17尺級の清水寺塔、最小は8尺級の清水寺子安塔（寛永）で、現在は同じ寺院の境内に最大と最小の塔があることになる。

各重の枝割については、初重を中央間10支・脇間8枝・総間26枝とし、二重・三重はそれぞれ各間で1枝ずつ減らし総間で各3枝落ちとする塔が徳源院塔（滋賀県、江戸時代初期）・清水寺塔・金戒光明寺塔（京都府、寛永11年・1634）の3基ある。徳源院塔は初重総間10尺の小規模な塔であり、金戒光明寺塔は15尺のやや大型、清水寺塔は17尺の最大の塔であるから、清水寺塔は特別に木割の太いことが分かる。この3塔は建立年代がいずれも江戸時代初期であるが、これらと同じ枝割をもつ他地方の三重塔は4基あって、うち3基はやはり江戸時代初期のものである。宝積寺塔（京都府、桃山時代）と道成寺塔（和歌山県、宝暦13年・1763）は、初

重を中央間12枝・脇間10枝・総間32枝とし、二重・三重をそれぞれ中央間で2枝、脇間で1枝落として総間を各28枝・24枝としている（ただし、道成寺塔の三重は扇垂木）が、この枝割は他地方に例がない。水間寺塔（大阪府、江戸時代末期）も宝積寺・道成寺両塔と初重・二重は同じ枝数であるが、三重は総間が同じであるものの中央間・脇間の割付けは10枝・7枝としている。初重を中央間12枝・脇間10枝とし、二重以上は各間で2枝落ちあるいは1枝落ちとした枝割をもつ塔は各地方でみられたが、近畿地方でも前者は千光寺塔、後者は柏原八幡神社塔の例がある。真正極楽寺塔は初重・二重が中央間10枝、脇間8枝と同じで、三重のみそれより各間1枝ずつ落としている。初重と二重は同じ枝数であるから、1枝寸法は当然ながら二重の方が小さく、三重は二重と同じである。このように、初重と二重あるいは二重と三重を同じ枝数とした塔は他地域も含めてほかに例がないが、1枝寸法を初重だけ大きくした塔としては茨城県の不動院塔（安永8年・1779）と岡山県の金山寺塔（天明7年・1787）がある。また、三室戸寺塔（京都府・元禄16年・1703）では各重の1枝寸法が異なり、上重ほど小さくしている。1枝寸法の違いは組物の寸法にも影響し、真正極楽寺塔では初重のみ斗・肘木の寸法が大きく、三室戸寺塔では上重ほど斗・肘木の寸法が小さくなる。なお、初重・二重は指垂木で三重のみ扇垂木とした三重塔は近世には多く、東北・関東地方では17塔中4基、中部地方では12塔中4基、中国・四国地方では15塔中7基がそうであったが、近畿地方では14塔中1基と、きわめて少なくなっている。

なお、高源寺塔は組物が特異で、柱間寸法は必ずしも枝割に合わない。柱間の割り付けも、正面・背面と両側面では異なる。

つぎに、側柱の見え掛り長さ（縁上～台輪上）についてみると、初重では総柱間の0.57～0.64に相当し、比較的揃っている。ただし、高源寺塔だけは0.49となって、初重軸部が極端に横長の比例を示している。

(2) 多宝塔

27基（実測未了の安楽寿院塔を除く）について下重総間の寸法をみると、7尺級1基、8尺級1基、10尺級3基、11尺級2基、12尺級1基、13尺級4基、14尺級3基、15尺級4基、16尺級4基、17尺級3基、21尺級1基となって、10尺級から17尺級まで平均しており、そのほかに7尺級の蓮花寺塔、21尺級の勝鬘院塔がある。蓮花寺塔は全国でも最小規模の、勝鬘院塔は最大規模の多宝塔である。下重の枝割は、中央間14枝・脇間10枝で総間34枝とする塔が9基、中央間14枝・脇間12枝で総間38枝とする塔が7基あり、同じパターンをとるものが多い。そのほかは、各種の枝割をとる塔がそれぞれ1～2基ずつある。

総間34枝で中央間14枝・脇間10枝とする9塔のうち5塔は兵庫県の長遠寺塔・酒見寺塔・奥山寺塔・伽耶院塔・蓮花寺塔（三木市）で、酒見寺塔と奥山寺塔は大工が同じ大工村の者であ

る。なお、海禅院塔では正面・背面と両側面で柱間の割り付けが異なり、正面・背面は中央間16枝・脇間7枝、両側面は中央間12枝・脇間9枝として、正面・背面の中央間を広くしている。

上重軸部の大きさは、直径が下重総間の0.5～0.535に相当し、丁度0.5となるものが5基ある。常寂光寺塔(京都府・元和6年・1621)だけは0.47と随分小さく、中世の塔の比例に似ている。

下重側柱の見え掛り長さ(縁上～柱天)をみると、総間の0.49～0.81となり、かなり幅がある。下重軸部の縦横の比例は、塔の規模が大きくなると横長に、小さいと縦長になる傾向が一般的で、近畿地方の多宝塔でも同様であり、16尺～17尺級の蓮花寺塔(三木市)は0.49、莊厳寺塔は0.5、10尺～11尺級の旧白豪寺塔(旧奈良県、江戸時代初期)は0.71、海禅院塔(和歌山県、慶安2年・1649)は0.79、8尺級の藤田美術館塔は0.81となる。しかし、そうでないものもあって、最大級の勝鬘院塔は0.67、15尺級の高山寺塔(和歌山県、文化12年・1815)は0.7とかなり縦長であるし、反対に最小規模の蓮花寺塔(洲本市)は0.61で特別縦長ではない。

3. 各部の様式手法

(1) 三重塔

15基の遺構すべてが初重に縁を設けていて、そのうち長命寺塔(滋賀県、慶長2年・1597)・清水寺塔・道成寺塔の3基は縁束に古式な円束を用いている。様式は水間寺塔・千光寺塔・道成寺塔が三重の軒を扇垂木とし、三室戸寺塔が各重で組物の尾垂木・支輪を禅宗様式に2段組としているだけで、ほかはほぼ和様である。頭貫に木鼻を付ける塔も高源寺塔だけで、さすがに近畿地方は正統的な塔が多い。高源寺塔は全体が特殊で、柱は隅を円柱、平を方柱とし、組物はなく支輪で丸桁を持ち出している。また、清水寺子安塔は組物が特殊な三手先で、二手目に秤肘木を入れずに支輪桁を通し、三手目は絵様肘木で持ち出し、やはり秤肘木なしに丸桁を支持している。子安塔は規模が小さいからではあろうが、この程度の規模ならば、室生寺五重塔のように正規の三手先を組んだ例もある。拳鼻は長命寺塔・真正極楽寺塔・三室戸寺塔・千光寺塔・柏原八幡神社塔・道成寺塔の6塔にある。尾垂木は道成寺塔が二重・三重を、柏原八幡神社塔が初重・二重の隅だけを竜の彫刻とし、水間寺塔が全重を渦付きの異形のものとしているほかは、ほぼ和様のものである。道成寺塔では三重のみ雲文彫刻付板支輪と雲文透彫付板天井、柏原八幡神社塔は初重のみ波・鳥を彫刻した板支輪としており、両者では尾垂木も含めて最上重と最下重のどちらかを彫刻で飾るか、逆の考えをとっている。また、水間寺塔は二重・三重を雲文彫刻付板天井、千光寺塔が三重のみ彫刻付板支輪とし、規模の小さい徳源院塔・子安塔・三室戸寺塔では板支輪・板天井(徳源院塔は初重のみ本支輪、三室戸寺塔は2段の軒支輪のうち上段は本支輪)としている。結局、全重を正規の本支輪・組入天井とするのは、長命寺

塔・清水寺塔・金戒光明寺塔・真正極楽寺塔・宝積寺塔・太山寺塔（兵庫県，貞享5年・1688）の6塔となる。

中備は、水間寺塔の初重と道成寺塔の初重・二重が三間とも藁股で、水間寺塔では12支の彫刻を入れ、柏原八幡神社の全重と真正極楽寺塔・千光寺塔の各初重・二重では、中央間藁股・脇間簀束としている。そのほかは、撥束か簀束である。

柱間装置は、四面とも同じ中央間板扉または棧唐戸・脇間連子窓とする塔が9塔で、残る5塔は向きによって初重の柱間装置を変え、正面性をもたせている。徳源院塔は中央間の正面・背面が板扉、側面が板壁で、脇間はすべて連子窓、高源寺塔は正面・背面が中央間棧唐戸・脇間連子窓、側面が中央間連子窓・脇間板壁であり、子安塔は正面が3間とも格子戸、背面・側面が中央間板扉・脇間板壁、道成寺塔は正面・側面が中央間棧唐戸・脇間連子窓、背面が3間とも板壁である。高源寺塔は、前述のように割り付けを変えて正面・背面の中央間を両側面より広くしているが、それは正面と背面に扉口を設けるためである。子安塔は江戸時代には安産を願う参詣者の多かった塔で、そのため正面を格子戸として開放的に扱ったのであろう。また、三室戸寺塔は中央間が正面・側面を棧唐戸、背面を板壁、脇間が正面を火灯窓、側面・背面を板壁としている。このように、三重塔では元来四面同じであるべき柱間装置を向きによって変える塔が5基あって、この点は他地域と同じように近世的傾向を示している。

縁には二重・三重だけでなく初重にも高欄を設ける塔がほとんどで、初重の縁に高欄がないのは宝積寺塔だけである。残る14塔のうち、金戒光明寺塔は各重とも跳高欄、高源寺塔は各重とも擬宝珠高欄としているが、ほかは重によって高欄の形式を変えていて、水間寺塔と千光寺塔は初重・三重が擬宝珠高欄、二重のみ跳高欄、ほか9塔は初重のみ擬宝珠高欄、二重・三重が跳高欄である。ただし、高欄は最も後世の修理を受けやすい部分なので、それらが建立当初の形式であるとは断定できない。

屋根の葺材については、長命寺塔と柏原八幡神社塔が檜皮葺、徳源院塔がこけら葺、高源寺塔ももとはこけら葺とみられる⁽²⁾ほかは本瓦葺⁽³⁾で、伝統的な本瓦葺が多いのはやはり近畿地方なるが故であろうか。相輪は、柏原八幡神社塔と高源寺塔では水煙の上下に受花が余分に入っている。所在地が同じ兵庫県氷上郡であり、建立年代も十数年しか変わらないことから、何か関連があるのかもしれない。

(2) 多宝塔

多宝塔の下重については、柱を方柱とするのは旧白豪寺塔と金剛峯寺金輪塔（和歌山県，天保5年・1834）の2塔だけで、ほかは八角柱の東南院塔（旧和歌山県，江戸時代末期）をのぞき円柱である。方柱の2塔と朝光寺塔を除いては柱上に台輪を備えている。多宝塔の下重は裳階から発展したものであり、元来は方柱で台輪を備えなかったから、遺構の多い近畿地方でも

伝統的な形式をもつ塔はきわめて少ないことになる。頭貫に木鼻を付ける塔と付けない塔とはほぼ半々で、木鼻を付ける場合は禅宗様式のものほとんどであるが、もと奈良県所在の旧白豪寺塔では大仏様系のものが付く。奈良県では不退寺塔婆（もと多宝塔の下重、鎌倉時代）が大仏様の木鼻を付けており、旧白豪寺塔はそうした伝統を引いているものと思われる。東南院塔では正面だけ頭貫を虹梁形とし、四面とも頭貫・台輪に木鼻を付けている。

組物は旧白豪寺塔が出三斗、朝護孫子寺塔（奈良県、江戸時代末期）が三手先であるほかは、出組が18塔、二手先が8塔となっている。下重組物を平三斗あるいは出三斗とする多宝塔は、中世の遺構でもごく少なく、旧白豪寺塔は方柱で台輪を入れないことと合わせ、きわめて古式といえる。下重組物を三手先とする例は江戸時代末になってみられるもので、他地方では福島県の安洞院塔（文化9年・1812）・茨城県の楽法寺塔（嘉永6年・1853）・香川県の弥谷寺塔（天保2年・1831）がある。拳鼻は大半の塔が付けており、尾垂木は三手先の朝護孫子寺塔と二手先の高山寺塔にあって、高山寺塔では隅行上段のものだけを竜の彫刻としている。

中備は葺股をおく塔が大半を占め、そのうち中央間・脇間とも葺股とする塔が7塔ある。7塔のうち、勝鬘院塔は中に12支の彫刻を入れ、奥山寺塔は上に双斗を置く。兵庫県では鶴林寺本堂（応永4年・1397）・東光寺本堂（室町時代）などが中備を双斗板葺股としており、そうした中世の伝統を奥山寺塔は引いているのであろう。また、蓮花寺塔（三田市）は中央間・脇間とも葺股とするのは正面だけで、側面・背面では脇間を簷束に変えている。また、海禅院塔は正面・側面の中央間にだけ葺股を入れ、背面中央間には簷束を立て、脇間は四面とも何も置かない。そのほか、朝光寺では脇間は四面とも撥束を立てるのに、中央間は南面と北面に双斗を置き、東面と西面には何も置いていない。あるいは、葺股でも入れる計画であったのだろうか。なお、酒見寺塔・荘厳寺塔・高山寺塔の3塔には中備はない。

軒についてはすべて二軒で、藤田美術館塔が扇垂木とするほかは平行軒である。

柱間装置は、四面とも同じ中央間板扉または棧唐戸・脇間連子窓とする塔が最も多くて14基あり、これに四面とも同じ中央間板扉・脇間火灯窓とする勝鬘院塔、四面とも中央間棧唐戸・脇間框付板壁とする奥山寺塔、四面とも中央間棧唐戸・脇間土壁する朝光寺塔、四面とも中央間格子戸片引き・脇間連子窓とする本隆寺塔・穴太寺塔（京都府、寛政11年・1779）、四面とも中央間棧唐戸引違い、脇間連子窓とする温泉寺塔（兵庫県、明和5年・1768）を加えると、四面の柱間装置を同一形式とした塔は20基にのぼる。

向きによって柱間装置を変え正面性をもたせた塔は7基あり、本法寺塔（京都市、文化5年・1808）は、正面・背面を中央間格子戸引分け・脇間火灯窓、側面3間とも土壁、荘厳寺塔と金剛峯寺金輪塔は正面・側面を中央間棧唐戸・脇間連子窓、背面のみ中央間舞良戸引違い又は板戸片引き・脇間連子窓又は板壁、蓮花寺塔（三田市）は正面が中央間棧唐戸・脇間火灯窓、側面の中央間が舞良戸引違いでほかは板壁、蓮花寺塔（洲本市）は正面のみ中央間棧唐戸・脇間

連子窓で、ほか三面は板壁、海禅院塔は正面・背面の中央間棧唐戸ではほかは板壁、東南院塔は中央間板扉・脇間格子窓で正面のみ格子窓の中に火灯形を造っている。そのうち、蓮花寺塔（三田市）と海禅院塔は組物でも中備の形式を少し変えて正面性をもたせていることは先に述べた。また、海禅院塔が正面・背面と両側面の柱間の割り付けを変え、正面・背面の中央間を広くしたのはここに扉口を設けるためである。そのほか四面とも中央間棧唐戸・脇間連子窓とする清涼寺塔でも、正面のみ連子窓を無双式にして採光できるようにし多少の差を付けている。なお、本法寺・本隆寺・穴太寺・温泉寺各塔のように、正面中央間を扉ではなく引戸とした塔はあまり例がない。

上重については、組物は正規の四手先とする塔が20基、三手先が8基で、やはり正規の形式をもつ塔が多い。三手先の朝護孫子寺塔は下重組物も三手先としており、多宝塔というよりも層塔の感覚に近いといえる。禅宗様の手法と同様に尾垂木・軒支輪を2段にする塔としては、清涼寺・本法寺（軒支輪は1段）・勝鬘院・莊厳寺・高山寺（一部の尾垂木は竜の彫刻）・安楽寿院（京都市、慶長11年・1606）の6塔があり、このうち尾垂木・肘木を禅宗様とするものは本法寺・勝鬘院・高山寺・安楽寿院の4塔で、清涼寺塔は肘木が禅宗様で尾垂木が竜の彫刻、莊厳寺塔は尾垂木・肘木とも和様である。軒支輪は本法寺塔が本支輪1段、勝鬘院塔が板支輪で上段は雲文彫刻付、莊厳寺塔が下段菱支輪・上段本支輪としている。そのほか、尾垂木・肘木を禅宗様としながら、1段しか組まないもの、和様でありながら板支輪とするものなど、細部手法は和様・禅宗様の手法が入り混った塔も多い。

上重の軒もすべて二軒で、扇垂木の塔が19基あって大半を占めており、この点、三重を扇垂木とする遺構が少ない三重塔とは傾向が異なる。三重塔の方が多宝塔よりも伝統的手法を用いることが多いともいえるが、多宝塔では上重軸部が円形で枝割には関係ないことから、変化があって技術的に格が上とみられる扇垂木を多用しているとも考えられる。なお、藤田美術館塔は上・下重とも扇垂木とした珍しい例である。

屋根の葺材については、本瓦葺が最も多くて11塔、ついで桧皮葺5塔、棧瓦葺1塔、こけら葺・銅板葺各1塔で、ほかに上重と下重の葺材を変えた塔が5基ある。本瓦葺11塔のうち、本法寺塔はこけらの軒付を積んでいるので、もとはこけら葺であった可能性が強いが、これを除いても本瓦葺の多宝塔が比較的多いことは三重塔の場合と同じで、近畿地方なるが故であろうか。棧瓦葺の3塔については建立当初から棧瓦であったのか否かは疑わしく、なかでも石州瓦を葺いている温泉寺塔は棟札に「板葺多宝塔」とあることと、軒先の納まりからみて、もとはこけら葺であったと考えられる。

興味深いのは下重と上重の葺材を変えた塔が5基あることで、清涼寺塔は下重本瓦・上重銅板瓦葺、酒見寺塔は下重本瓦・上重桧皮葺、奥山寺塔は下重本瓦・上重棧瓦葺、蓮花寺塔（三田市）は下重棧瓦・上重桧皮葺、蓮花寺塔（洲本市）は下重本瓦・上重銅板葺である。清涼寺塔

は江戸で造られた塔であるから、五重のみ銅瓦・ほか本瓦葺とした旧寛永寺五重塔（寛永16年・1639）、三重以上銅板（銅瓦に近い）・初重二重本瓦葺とした本門寺五重塔（慶長12年・1607）などと同じく、江戸地方における塔の手法とみてよい。残る4塔はいずれも兵庫県下の塔で、これも兵庫県下の地方的手法とも考えられる。棧瓦や銅板葺は途中で変更された可能性が強いことを考慮すると、酒見寺塔のように他の3塔も下重本瓦葺・上重檜皮葺（またはこけら葺）であったのかもしれない。この場合、下重は上重の軒先から雨水が落ちるので、本瓦葺にしたと考えられる。

相輪は多宝塔では九輪の上に層塔の水煙・竜車に代わって四葉・六葉・八葉の受花を入れ、四方に宝鎖を付けるのが通例であるが、近畿地方には層塔式に水煙を付けた塔が本法寺塔・本隆寺塔・温泉寺塔・高山寺塔と4基ある。相輪の形式にも層塔との混乱がみられるのは、近世の傾向のひとつであろう。

ところで、すでに述べたように、兵庫県の酒見寺塔と奥山寺塔は建立年代には約40年の開きがあるものの、地元の同じ大工集団の手になったものであり、下重柱間の枝数は同じである。ただし、一枝寸法は酒見寺塔の方が大きく、規模も少し大きくなる。そこで、各部の様式手法について比べてみると、組物は両塔とも下重出組・上重四手先で基本は同じであるが、酒見寺塔の上重には拳鼻を付けない点が異なり、さらに下重の中備は酒見寺塔では入れないのに奥山寺塔では養股上双斗をおいて大きく違う。軒は酒見寺塔が上重を扇垂木としているのに奥山寺塔は平行垂木である。屋根は酒見寺塔が下重本瓦葺、上重本瓦葺であり、奥山寺塔もおそらく同様であったと思われる。下重の柱間装置は四面とも同じとする点と中央間の棧唐戸は変わらないが、脇間は酒見寺塔が連子窓とするのに対し、奥山寺塔は窓框を回して絵様付の板をはめている。さらに、外観上大きく違うのは酒見寺塔では柱上部から組物にかけて装飾文様を極彩色で描いているのに対し、奥山寺塔は素木のままとしていることである。このように、同じ系統の大工でもかなり形式手法の違った塔を建てていることが分かるが、これは時代の差でもあるのだろうか。

4. 内部の状況と組上げ構造

(1) 三重塔

初重の内部についてみると、四天柱を立てる塔が10基、来迎柱のみ立てる塔と全く柱を立てない塔とが各2基で、四天柱の揃った塔が大半を占めている。室町時代には来迎柱のみとした塔がかなりあり、近世になると再び四天柱を揃えて立てる塔が多くなるのは一般的な傾向である。四天柱を立てる10塔のうち、真正極楽寺塔を除く9基は来迎壁を設けている。真正極楽寺塔は

四天柱内の床を1段高く張り、そこに現在は多宝小塔を安置しているが、もとは四仏を本尊として祀っていたともいい、来迎壁がないのは本尊の祀り方に関係するのであろう⁽⁵⁾。四天柱内の床を1段高く張る形式は金戒光明寺・高山寺両塔にもみられる。金戒光明寺塔は四天柱内の床上に騎獅文殊菩薩像及び四侍者像を祀り、文殊塔として知られているが、もとは床上に須弥壇を設けていたらしい⁽⁶⁾。道成寺塔は床上の後ろ寄りに須弥段を構え、厨子を置いて大日如来像を祀っている。また、千光寺塔には四天柱間及び四天柱・側柱間に繫虹梁を入れる手法がとられている。なお、長命寺塔の四天柱は側柱より細いが、滋賀県下には西明寺三重塔(鎌倉時代後期)、金剛輪寺三重塔(南北朝時代)など中世の遺構にも同様の例があり、地方的傾向と考えられる。

来迎柱だけを立てるのは、徳源院塔と三室戸寺塔で、前者は上方へ延びる来迎柱に格天井が直接取り付いていて納まりがわるい。後者は来迎柱が側柱筋より後退して立ち、頭貫・台輪を組み三斗を置いて格天井を張り、来迎柱と後ろの側柱との間を囲って仏龕状に造っているが、塔にはこのような仏龕状の仏壇は類例が少ない。

柱を全く立てないのは清水寺子安塔と高源寺塔で、前者は後ろ寄り1間通りに仏壇を設け、その上に小柱を立てており、正面の柱間装置と合わせて仏堂的構えといえる。後者は仏壇を設けず一面に折上げ格天井を張り、中央に八角経蔵を設けてその正面に釈迦如来像を祀っていて、塔と経蔵を兼ねた建物ともいえる。

二重及び三重の内部は、従来どおり雑作を付けない塔が大半を占めるが、水間寺塔と道成寺塔は梯子を架け床板を張っている。保守管理のためのものか、あるいは他地方の一部の塔にみられるごとく参詣者をも上げていたのかは明らかでない。なお、柏原八幡神社塔でも床と梯子を設けているが、これは後設されたものである。

二重・三重の組上げ構法は、側柱・四天柱とも下重地垂木または地隅木上に立てる伝統的な方式をとる塔が長命寺塔と宝積寺塔の2基、側柱を下重地垂木上に立て四天柱は下重繫肘木上に立てる塔が清水寺塔・真正極楽寺塔・水間寺塔と徳源院塔の4基、側柱・四天柱とも下重繫肘木上に立てる塔が太山寺塔1基、側柱は下重地垂木上に立て、四天柱は下重四天柱上に梁を組んで立てる近世的手法をとるのが金戒光明寺塔と千光寺塔の2基、側柱・四天柱とも下重柱上に組んだ梁上に立てるのが柏原八幡神社塔と高源寺塔の2基である。金戒光明寺塔は外部の形式手法は伝統的であるのに、内部の構造手法は近世的である。三室戸寺塔では二重・三重に四天柱がなく、側柱は下重尾垂木上柱盤に立てているが、この塔は移築された時に大半の野物材が取り替えられ、構造手法も一部変更されたらしく、もとは四天柱が立っていたのかもしれない。道成寺塔の組上げ構法は、特殊なもので、心柱は三重から立て、下重の繫肘木上に立てた束(墨書によると「矩柱」と称している)上に床梁を組み、その上に柱盤をおいて側柱(「腰柱」と称している)を立てており、四天柱はない。

(2) 多宝塔

初重の内部は、四天柱を立てる塔が17基あって大半を占め、来迎柱だけを立てる塔は7基、柱を全く立てない塔が3基ある。中世の遺構に来迎柱だけを立てる例が多く、近世に少なくなる傾向は三重塔と同じである。四天柱を立てる塔のうち、来迎壁を設けないのは本法寺・本隆寺・蓮花寺（三木市）・朝光寺・朝護孫子寺・高山寺の6塔ある。本法寺塔は須弥壇上の正面と背面に仏像を祀っており、それに合わせて側回りの柱間装置も正面・背面は格子戸・火灯窓、両側面は土壁としている。本隆寺塔は下重内部の構成が特異で、心柱が通り、これを囲んで須弥壇を構え、その壇上に小柱を立てて火灯形の頭貫を組み、大斗肘木をおいて小組格天井を張っている。現在仏像は祀られていないが、心柱に「四仏……」の墨書があるので、心柱の周りに四仏を安置していたのかもしれない。蓮花寺塔（三木市）は四天柱に頭貫を組み連三斗をおいて格天井を張っており、須弥壇上には大日五仏を祀っている。中尊は正面を向くが、来迎壁がないので四仏は四方を向いている。朝光寺塔は古式な構えで、天井も二重折上げ小組格天井である。朝護孫子寺塔は四天柱間の四面に扉を設け、中に須弥壇をおいて大日如来を祀っているが、この塔は大正13年の改修が大きく、当初の形式がどれだけ残されているのか明らかでない。

四天柱を立て来迎壁を設けた塔のうち、清凉寺塔と金剛峯寺金輪塔は四天柱間と四天柱・側柱間に繫虹梁を入れ、柱筋に天井桁を通して鏡天井又は格天井を張っている。東南院塔は四天柱・側柱とも八角で、柱頭に頭貫・台輪を組み三斗をおいて格天井を張る。穴太寺塔は四天柱間正面に虹梁、側面に長押を入れ、根肘木で天井桁を通し格天井を張っている。勝鬘院・叡福寺・酒見寺・奥山寺の4塔は折上げ小組格天井を張った正統的な構成であり、伽耶院塔は側回りを鏡天井（四天柱内は折上げ小組格天井）とする点だけが違う。最小規模の塔である蓮花寺塔（洲本市）も四天柱を立て来迎壁を設けた本格的な構成であるが、天井は全面に鏡天井を張っている。

来迎柱を立て来迎壁を設ける塔は6基で、このうち温泉寺塔は前面に須弥壇を構え背面に張り出しを設けており、須弥壇の高欄親柱は珍奇な彫刻になっている。海禅院塔は須弥壇を設けず、来迎壁前に南無法蓮華経の題目を刻んだ紀州藩祖徳川頼宣の母の供養石碑を立てていて、その下には多数の題目石を納めるために大きな堅穴が掘られているという。なお、善峰寺塔は現在は来迎壁を側柱筋より少し後退させて立っているが、この柱は床立ちで後設されたものらしく、もとは柱を立てなかったと思われる。

下重内部に柱を立てない塔は藤田美術館塔・蓮花寺（三木市）・旧白豪寺の3塔で、藤田美術館塔と旧白豪寺塔は組物を一手出して格天井を一面に張り、旧白豪寺塔は格天井の中央部を折上げ小組格天井としている。

以上のように、多宝塔の下重内部については、柱の立て方は近世における一般的な傾向をもち、天井回りや須弥壇回りの構えに様々のものがみられるのも近世の一般的傾向といえよう。

なお、四天柱・来迎柱のいかんを問わず、勝鬘院・酒見寺・久米寺の3塔ではほぼ内部全面、叡福寺塔では四天柱回り、莊嚴院塔では柱頭部より上に、仏画や装飾文様を極彩色で描いている。

註

- (1) 高欄擬宝珠に宝暦4年(1754)～6年の刻銘があるが、擬宝珠だけ他の建物のものを転用したのか、鋳造品が先に準備されたのかは、にわかには断定しえない。この塔は、寺蔵文書によると宝暦3年に再建願いが出され許可されたが、工事は進まず、文化3年(1806)に大工から積り書が出されている。しかし、この時も工事に掛かっていたか否かは明らかでない。ここでは、一応心柱墨書(三重目)の天保14年をとった。初重と二重・三重の一枚寸法が異なることから、文化3年から遠くない時期に初重が着工され、一時中断してのち二重・三重が造られたとも思われるが、心柱の初重目にも天保3年の墨書があることから判断して、文化3年には着工に至らなかったと考えたい。
- (2) 高源寺塔は現在棧瓦葺であるが、裏甲上にこけらの軒付が残されている。
- (3) 千光寺塔は初重のみ本瓦、二重・三重は銅板葺であるが、銅板葺は大正9～11年葺き変えたものである。
- (4) 東西院塔は昭和12年頃和歌山県の野上八幡宮から移したもので、その時の取替材も多く、旧状を踏襲しているか否かはっきりしないところもある。
- (5) 真正極楽寺三重塔では大正年間に多宝小塔に変えたという。四仏の場合は四方に向けて祀ることが多いので、来迎壁のない方が具合がよい。
- (6) 金戒光明寺三重塔には後ろの両脇間に脇仏壇を構えているが、これは後設されたものである。

(国立歴史民俗博物館 情報資料研究部)

付表 近畿地方の近世仏塔

(寸法 単位: 尺)

(1) 五重塔

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 重別 | 総間(S) | | 中央間 | | | 脇の間 | | | 通減 | | 軸部高 |
|----|-------|------------|------------------------|--------------|----|-------|----|-------|----|------|-------|----|------|------|-------|---------------------------------|
| | | | | | | 寸法 | 枝 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 率 | |
| 1 | 教王護国寺 | 京都市南区九条町 | 寛永20(1643) [記録, 刻銘] | 大工中井大和, 棟梁和泉 | 初 | 31.28 | 34 | 11.04 | 12 | 0.92 | 10.12 | 11 | 0.92 | | 1.0 | 14.74 (0.47 S ₁) |
| | | | | | 二 | 28.52 | 31 | 10.12 | 11 | 〃 | 9.20 | 10 | 〃 | 2.76 | 5.78 | |
| | | | | | 三 | 25.76 | 28 | 9.20 | 10 | 〃 | 8.28 | 9 | 〃 | 〃 | 5.46 | |
| | | | | | 四 | 23.92 | 26 | 9.20 | 10 | 〃 | 7.36 | 8 | 〃 | 1.84 | 5.14 | |
| | | | | | 五 | 22.08 | 24 | 7.36 | 8 | 〃 | 7.36 | 8 | 〃 | 〃 | 0.706 | 4.88 |
| 2 | 仁和寺 | 京都市右京区御室大内 | 寛永21(1644) [土居茸板墨書] | | 初 | 19.52 | 32 | 7.32 | 12 | 0.61 | 6.10 | 10 | 0.61 | | 1.0 | |
| | | | | | 二 | 18.00 | 30 | 7.20 | 12 | 0.60 | 5.40 | 9 | 0.60 | 1.52 | | |
| | | | | | 三 | 16.47 | 27 | 6.71 | 11 | 0.61 | 4.88 | 8 | 0.61 | 1.53 | | |
| | | | | | 四 | 15.00 | 25 | 5.40 | 9 | 0.60 | 4.80 | 8 | 0.60 | 1.47 | | |
| | | | | | 五 | 13.42 | 22 | 4.88 | 8 | 0.61 | 4.27 | 7 | 0.61 | 1.58 | 0.687 | |

(2) 三重塔

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 重別 | 総間(S) | | 中央間 | | | 脇の間 | | | 通減 | | 軸部高 |
|----|-----|--------------|-----------------------|---|----|-------|----|-------|----|-------|-------|----|-------|-------|------|---------------------------------|
| | | | | | | 寸法 | 枝 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 率 | |
| 1 | 長命寺 | 滋賀県近江八幡市長命寺町 | 慶長2(1597) [擬宝珠珠刻銘] | 治工同国愛知郡長村藤村七郎兵衛藤原光重 黄地金右衛門藤原正重 [文化6年竜車刻銘] | 初 | 16.00 | 32 | 6.00 | 12 | 0.50 | 0.50 | 10 | 0.50 | | 1.0 | 9.125 (0.57 S ₁) |
| | | | | | 二 | 13.00 | 26 | 5.00 | 10 | 〃 | 〃 | 8 | 〃 | 2.00 | 4.57 | |
| | | | | | 三 | 11.00 | 22 | 4.00 | 8 | 〃 | 〃 | 7 | 〃 | 〃 | 0.69 | 4.25 |
| 2 | 徳源院 | 滋賀県坂田郡山東町清滝 | 江戸時代初期 | | 初 | 10.01 | 26 | 3.85 | 10 | 0.385 | 3.08 | 8 | 0.385 | | 1.0 | 6.20 (0.62 S ₁) |
| | | | | | 二 | 8.855 | 23 | 3.465 | 9 | 〃 | 2.695 | 7 | 〃 | 1.155 | | |
| | | | | | 三 | 7.00 | 20 | 3.08 | 8 | 〃 | 2.31 | 6 | 〃 | 〃 | 0.70 | |
| 3 | 清水寺 | 京都市東山区清水一丁目 | 寛永9(1632) [記録] | 大工大頭撰津国大坂住篠田源七郎藤原之朝 | 初 | 17.16 | 26 | 6.60 | 10 | 0.66 | 5.28 | 8 | 0.66 | | 1.0 | 10.03 (0.58 S ₁) |
| | | | | | 二 | 15.18 | 23 | 5.94 | 9 | 〃 | 4.62 | 7 | 〃 | 1.98 | 3.75 | |
| | | | | | 三 | 13.20 | 20 | 5.28 | 8 | 〃 | 3.98 | 6 | 〃 | 〃 | 0.79 | 3.64 |

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 重別 | 総間(S) | | 中央間 | | | 脇の間 | | | 通減 | | 軸部高 |
|----|----------------|-----------------|--------------------------|-----------------------------|-----|--------|------|-------|------|--------|-------|-----|--------|-------|-------|---------------------------------|
| | | | | | | 寸法 | 枝 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 枝 | 1枝寸法 | 寸法 | 率 | |
| 4 | 清水寺塔 (旧泰産寺) | 京都市東山区清水一丁目 | 寛永 | | 初二三 | 8.415 | 30 | 3.365 | 12 | 0.28 | 2.525 | 9 | 0.28 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 金光明戒寺 | 京都市左京区黒谷町 | 寛永11(1634) 【文書】 | | 初二三 | 15.03 | 26 | 5.77 | 10 | 0.578 | 4.63 | 8 | 0.578 | 1.73 | 1.0 | |
| | | | | | | 13.30 | 23 | 5.20 | 9 | 〃 | 4.05 | 7 | 〃 | 1.74 | | |
| | | | | | | 11.56 | 20 | 4.64 | 8 | 〃 | 3.46 | 6 | 〃 | | 0.77 | |
| 6 | 真極楽正寺 | 京都市左京区浄土寺真如町 | 天保14(1843) 【心柱墨書】 | 治工奥田大和藤原正次 【宝曆4年擬宝珠】 | 初二三 | 15.94 | 26 | 6.13 | 10 | 0.613 | 4.905 | 8 | 0.613 | 1.66 | 1.0 | 9.07 (0.57 S ₁) |
| | | | | | | 14.28 | 26 | 5.40 | 10 | 0.54 | 4.44 | 8 | 0.555 | 1.65 | | 3.70 |
| | | | | | | 12.63 | 23 | 4.86 | 9 | 〃 | 3.885 | 7 | 〃 | | 0.79 | |
| 7 | 宝積寺 | 京都府乙訓郡大山崎町大山崎 | 桃山時代 | | 初二三 | 12.72 | 32 | 4.78 | 12 | 0.397 | 3.97 | 10 | 0.397 | | 1.0 | 7.50 (0.59 S ₁) |
| | | | | | | 11.13 | 28 | 3.97 | 10 | 〃 | 3.58 | 9 | 〃 | 1.59 | | 3.12 |
| | | | | | | 9.54 | 24 | 3.18 | 8 | 〃 | 3.18 | 8 | 〃 | 〃 | 0.75 | 3.26 |
| 8 | 三室戸寺 (旧高蔵寺) | 京都府宇治市菟道滋賀道 | 元禄16(1703) 【尾垂木墨書】 | 安東源七正親 | 初二三 | 9.00 | 30 | 3.60 | 12 | 0.30 | 2.70 | 9 | 0.30 | 1.30 | 1.0 | 5.465 (0.61 S ₁) |
| | | | | | | 7.70 | 28 | 3.30 | 12 | 0.275 | 2.20 | 8 | 0.275 | 1.12 | | |
| | | | | | | 6.58 | 26 | 2.53 | 10 | 0.253 | 2.025 | 8 | 0.253 | | 0.73 | |
| 9 | 水間寺 | 大阪府貝塚市水間 | 江戸時代末期 | | 初二三 | 14.035 | 32 | 5.265 | 12 | 0.4385 | 4.385 | 10 | 0.4385 | 1.765 | 1.0 | 8.595 (0.61 S ₁) |
| | | | | | | 12.27 | 28 | 4.38 | 10 | 0.438 | 3.945 | 9 | 0.438 | 1.775 | | 4.74 |
| | | | | | | 10.495 | (24) | 4.375 | (10) | 0.437 | 3.06 | (7) | 0.437 | | 0.748 | 4.245 |
| 10 | 太山寺 | 兵庫県神戸市垂水区伊川谷町前開 | 貞亨5(1688) 【心柱墨書】 | | 初二三 | 15.07 | 30 | 6.03 | 12 | 0.502 | 4.52 | 9 | 0.502 | 1.01 | 1.0 | |
| | | | | | | 14.06 | 28 | 6.03 | 12 | 〃 | 4.015 | 8 | 〃 | 〃 | | 3.19 |
| | | | | | | 13.05 | 26 | 5.02 | 10 | 〃 | 4.015 | 8 | 〃 | 〃 | 0.87 | 3.19 |
| 11 | 千光寺 | 兵庫県洲本市上膳内 | 文政13(1830) 【銘板, 石階刻銘】 | 鑄師大坂高津北坂大谷久蔵藤原吉次 【擬宝珠刻銘】 | 初二三 | 14.53 | 32 | 5.45 | 12 | 0.454 | 4.54 | 10 | 0.454 | 2.73 | 1.0 | 9.29 (0.64 S ₁) |
| | | | | | | 11.80 | 26 | 4.54 | 10 | 〃 | 3.63 | 8 | 〃 | 2.72 | | 2.18 |
| | | | | | | 9.08 | (20) | 3.63 | (8) | 〃 | 2.725 | (6) | 〃 | | 0.625 | 2.085 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------|------------------|----------------------|---|---|-------|------|------|-----|------|------|-----|-------|------|-----|---|
| 12 | 柏原神社 八幡神社 | 兵庫県水上郡柏原町 八幡山 | 文化12(1815) [心柱墨書] | 大工棟梁当所大工町久 大夫・利兵衛・与兵衛 [文書] 彫物師中井徳治良 [尾垂木墨書] | 初 | 16.32 | 32 | 6.12 | 12 | 0.51 | 5.10 | 10 | 0.51 | 1.53 | 1.0 | 9.22 (0.565 S ₁) 4.79 |
| | | | | | 二 | 14.79 | 29 | 5.61 | 11 | 〃 | 4.59 | 9 | 〃 | | | |
| | | | | | 三 | 13.26 | 26 | 5.10 | 10 | 〃 | 4.08 | 8 | 〃 | | | |
| 13 | 高源寺 | 兵庫県水上郡青垣町 松倉 | 寛政11(1799) [寺伝] | 鑄工大坂住山本佐兵衛 [擬宝珠刻銘] | 初 | 19.88 | | 7.62 | | | 6.13 | | | 3.32 | 1.0 | 9.76 (0.49 S ₁) 4.305 |
| | | | | | 二 | 16.56 | | 5.52 | | 5.52 | | | 3.33 | | | |
| | | | | | 三 | 13.23 | | 4.41 | | 4.41 | | | 0.665 | | | |
| 14 | 長谷川邸 | 兵庫県宝塚市米谷塚 垣内 | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 道成寺 | 和歌山県日高郡川辺 町鐘巻 | 宝暦13(1763) [心柱墨書] | 鑄物師京三条釜座住奥 田大和藤原正次 [擬宝 珠刻銘] | 初 | 14.40 | 32 | 5.40 | 13 | 0.45 | 4.50 | 10 | 0.45 | 1.80 | 1.0 | 8.38 (0.58 S ₁) 3.69 |
| | | | | | 二 | 12.60 | 28 | 4.50 | 10 | 〃 | 4.05 | 9 | 〃 | | | |
| | | | | | 三 | 10.80 | (24) | 3.60 | (8) | 〃 | 3.60 | (8) | 〃 | | | |

- 注1. 清水寺子安塔は、同寺馬駐の斜め向いにあった泰産寺の塔を明治45年に移したものだ。
 2. 三室戸寺塔は、高蔵寺（兵庫県）の塔を明治43年に移したものだという。
 3. 長谷川邸塔は、開化寺（三重県）の塔を昭和の初め頃に移したものだというが、未調査。

(3) 多宝塔

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 下重柱間 | | | | 上重径 | 下重軸 部高 | 下重 | | 上重 | |
|----|-------|------------------|--------------------|-------------------------------|--------------|--------------|-------------|-------|-------------------|------------------|----|----|----------|-----------------|
| | | | | | 総間 | 中央間 | 脇の間 | 1枝寸法 | | | 柱 | 組物 | 軒 | 組物 |
| 1 | 瓊々杵神社 | 滋賀県高島郡朽木村 宮前 | 天保13(1842) [棟札] | 大工棟梁片岡太郎左衛 門藤原久成 | 12.00 40枝 | 4.80 16枝 | 3.60 12枝 | 0.30 | 6.30 (0.525 S) | 6.94 (0.58 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 三手先 二軒 扇 |
| 2 | 安楽寿院 | 京都市伏見区竹田内 畑町 | 慶長11(1606) | | 32枝 | 12枝 | 10枝 | | | | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 二軒 扇 |
| 3 | 寂常光寺 | 京都市右京区嵯峨小 倉山町 | 元和6(1620) [棟札] | 大工藤原土井中源丞宗 次 治工草壁中兵衛尉光正 | 11.00 36枝 | 4.28 14枝 | 3.36 11枝 | 0.306 | 5.18 (0.471 S) | 7.1 (0.645) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 二軒 平行 |
| 4 | 善峰寺 | 京都市西京区大原野 小塩町 | 元和7(1621) [棟札] | 大工入道宗喜 | 9.835 33枝 | 3.875 13枝 | 2.98 10枝 | 0.298 | 5.1 (0.52 S) | | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 二軒 平行 |

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 下重柱間 | | | | 上重径 | 下重軸部高 | 下重 | | 上重 | | |
|----|-----------------|--------------------|----------------------------|-----------------------------------|--------------|-------------|--------------|-------|--------------------|--------------------|----|-----|----------|-----------|----------|
| | | | | | 総間 | 中央間 | 脇の間 | 1枝寸法 | | | 柱 | 組物 | 軒 | 組物 | 軒 |
| 5 | 清凉寺 | 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町 | 元禄15(1702) [心柱墨書・擬宝珠刻銘] | 棟梁江戸神田遠藤武兵衛伊予様森秋 鑄物師 武江住河合善右衛門 | 12.98 38枝 | 4.78 14枝 | 4.10 12枝 | 0.341 | 6.5 (0.50 S) | 8.15 (0.63 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 平行 | 二軒 平行 |
| 6 | 本法寺 | 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前 | 文化5(1808) [棟札] | 大工棟梁西村左京・小林利兵衛 | 16.69 38枝 | 6.15 14枝 | 5.27 12枝 | 0.439 | 8.7 (0.52 S) | 9.00 (0.54 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 7 | 本隆寺 | 京都府舞鶴市宇引土 | 寛延4(1751) [棟札・露盤刻銘] | 大工当国林田伝之丞房章 治工近州栗太郎添村国松三郎左衛門尉藤原定賢 | 10.00 34枝 | 4.12 14枝 | 2.94 10枝 | 0.294 | | 6.345 (0.63 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 8 | 穴太寺 | 京都府亀岡市曾我部町穴太 | 寛政11(1799) [墨書] | | 14.85 38枝 | 5.47 14枝 | 4.69 12枝 | 0.391 | | 7.915 (0.53 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 9 | 勝鬘院 | 大阪市天王寺区夕陽ヶ丘町 | 元和6(1620) [心柱墨書] | 治工大谷三郎正次 | 21.28 38枝 | 7.84 14枝 | 6.72 12枝 | 0.56 | 11.42 (0.537 S) | 14.235 (0.67 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 10 | 叡福寺 | 大阪府南河内郡太子町太子 | 承応元(1652) [擬宝珠刻銘] | | 15.98 34枝 | 6.58 14枝 | 4.70 10枝 | 0.47 | | 9.03 (0.565 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 11 | 藤田美術館 (旧高台院) | 大阪市都島区綱島町10 | 江戸時代中期 | | 8.15 | 3.55 | 2.30 | | 4.0 (0.49 S) | 6.59 (0.81 S) | 円 | 出組 | 二軒 扇 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 12 | 長遠寺 | 兵庫県尼崎市寺町 | 慶長11(1606) [棟札] | 大工辻花二 | 13.09 34枝 | 5.39 14枝 | 3.85 10枝 | 0.385 | 6.5 (0.50 S) | | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |
| 13 | 酒見寺 | 兵庫県加西市北条町 | 寛文2(1662) [墨書・露盤銘] | 大工字仁大工村惣左衛門 | 16.00 34枝 | 6.19 14枝 | 4.705 10枝 | 0.471 | 8.06 (0.503 S) | 8.955 (0.56 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 14 | 奥山寺 | 兵庫県加西市国正町 | 宝永5(1708) [繫肘木墨書] | 大工神田作右衛門 治工姫治野里住尾上八郎兵衛正常他 | 15.37 34枝 | 6.33 14枝 | 4.52 10枝 | 0.452 | | 8.355 (0.544 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |
| 15 | 伽耶院 | 兵庫県三木市志染町大谷 | 正保4(1647) [縁起] | 大工明石水田作右衛門衛門 三木宮田理兵衛 | 14.96 34枝 | 6.16 14枝 | 4.40 10枝 | 0.44 | 7.48 (0.50 S) | 8.56 (0.57 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 16 | 蓮花寺 | 兵庫県三木市口吉川町 | 延享4(1747) [棟札] | 大工西大沢村日原武兵衛政勝 | 16.02 34枝 | 6.60 14枝 | 4.71 10枝 | 0.471 | 7.98 (0.498 S) | 7.83 (0.489 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---------------------|-------------------|-----------------------|-------------------------------------|---------------|----------------------------|----------------------------|-------|--------------------|--------------------|----|-----|----------|-----|----------|
| 17 | 蓮花寺 | 兵庫県三田市下槻瀬 | 文化9(1812) [棟札] | 大工棟梁長陽村跡部太 右衛門吉則・上槻村藤 原卯左衛門広次 | 13.545 35枝 | 5.805 15枝 | 3.87 10枝 | 0.387 | 7.25 (0.535 S) | 7.455 (0.55 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 18 | 蓮花寺 | 洲本市安乎町宮野原 | 文化2(1805) [石階刻銘] | 鋳物細工人大坂大谷惣 兵衛藤原晴英 | 7.03 40枝 | 2.81 16枝 | 2.11 12枝 | 0.176 | | 4.28 (0.61 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 19 | 朝光寺 | 兵庫県加東郡社町畑 | 宝永7(1710) [伏鉢刻銘] | | 16.90 38枝 | 6.22 14枝 | 5.34 12枝 | 0.445 | | 8.75 (0.518 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 20 | 莊厳寺 | 兵庫県多可郡黒田庄 町黒田 | 正徳5(1715) [心柱墨書] | 大工清水七郎左衛門清 光・清水武右衛門 | 16.55 38枝 | 6.09 14枝 | 5.23 12枝 | 0.435 | | 8.25 (0.498 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 21 | 温泉寺 | 兵庫県城崎郡城崎町 湯島 | 明和5(1768) [棟札] | | 13.97 40枝 | 5.59 16枝 | 4.19 12枝 | 0.349 | 7.24 (0.518 S) | 7.455 (0.53 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 平行 |
| 22 | 井植山莊 (旧白豪寺) | 兵庫県宝塚市切畑長 尾山 | 江戸時代初期 | | 10.66 32枝 | 4.66 14枝 | 3.00 9枝 | 0.333 | | 7.54 (0.71 S) | 方 | 出三斗 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |
| 23 | 久米寺 | 奈良県橿原市久米町 | 江戸時代初期 | | 12.62 34枝 | 5.20 14枝 | 3.71 10枝 | 0.371 | 6.535 (0.518 S) | 7.86 (0.623 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |
| 24 | 朝護孫子寺 | 奈良県生駒郡平群町 信貴畑 | 江戸時代末期 | | 13.72 38枝 | 5.055 14枝 | 4.3325 12枝 | 0.361 | | | 円 | 三手先 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 25 | 東南院 (旧野上八 幡宮) | 奈良県吉野郡吉野町 吉野山 | 江戸時代末期 | | 13.20 44枝 | 5.40 18枝 | 3.90 13枝 | 0.30 | | 6.89 (0.52 S) | 八角 | 出組 | 二軒 平行 | 三手先 | 二軒 扇 |
| 26 | 海禅院 | 和歌山市和歌浦 | 慶安2(1649) [南紀徳川史] | | 10.48 30枝 | 5.59 16枝 4.19 12枝 | 2.445 7枝 3.145 9枝 | 0.349 | | 8.30 (0.79 S) | 円 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 27 | 高山寺 | 和歌山県田辺市稲成 町 | 文化12(1815) [擬宝珠刻銘] | | 15.175 34枝 | 6.245 14枝 | 4.465 10枝 | 0.446 | 7.97 (0.525 S) | 10.60 (0.7 S) | 円 | 二手先 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 扇 |
| 28 | 金剛峯寺 金輪塔 | 和歌山県伊都郡高野 町高野山 | 天保5(1834) [記録] | | 16.44 32枝 | 6.16 12枝 | 5.14 10枝 | 0.514 | 9.24 (0.562 S) | 10.13 (0.616 S) | 方 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |

注1. 清水寺子安塔は明治45年に近くの泰産寺から移したもの
 2. 三室戸寺塔は高蔵寺(兵庫県)の塔を明治43年に移したもの
 3. 井植山莊塔は、白豪寺(奈良市)の塔を大正6年に移したもの

4. 藤田美術館塔は、高野山光台院(和歌山県)の塔を大正5年に移したものである
 5. 久米寺塔は、仁和寺(京都市)の塔を万治2年(1659)に移したものである
 6. 東南院塔は、野上八幡宮(和歌山県)の塔を昭和12年に移したものである

(4) 多宝大塔

| 番号 | 名称 | 所在地 | 建立年代 | 工匠名 | 下重柱間 | | | | | 下重 | | | 上重 | | |
|----|------------|-------------------|-------------------|---------------------------------|--------------|--------------|-------------|-------------|------|----|----|----|----------|-----|----------|
| | | | | | 総間 | 中央間 | 脇間 | 端間 | 1枝寸法 | 柱 | 組物 | 軒 | 組物 | 軒 | |
| 1 | 金剛峯寺塔 西 | 和歌山県伊都郡高野 町高野山 | 天保5(1834) [棟札] | 正大工藤原朝臣西山金 輔, 権大工同木下彦右 衛門 | 46.92 68枝 | 11.04 16枝 | 8.97 13枝 | 8.97 13枝 | 0.69 | | 方 | 出組 | 二軒 平行 | 四手先 | 二軒 平行 |

Design and Structure of Pagodas
in the Early Modern Age
——Remaining Structures in the Kinki District——

HAMASHIMA Masashi

44 pagodas which were constructed in the Early Modern Age remain in the Kinki District, including five-storied pagodas, three-storied pagodas, and treasure towers. This paper aims to clarify the features of the pagodas of the Early Modern Age with regard to their scale, style, structure, design, and so on, based on the results of field investigations of these remains, and taking their location into account.

1. Situation of remaining structures

Study of the distribution, age of construction, artisans engaged in the construction (carpenters, carvers, and casters) of the remaining structures

2. Pillar intervals and length

Study of the relationship between pillar intervals and lengths, the gradual decrease in pillar intervals with the three-storied pagoda, the proportion of vertical and horizontal lengths of the axial part of the first story

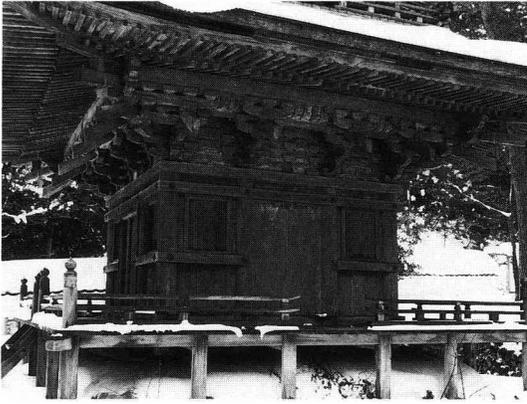
3. Stylistic techniques of each part

Study of the stylistic techniques of detailed parts, such as axial part, entablature, eaves, and devices between pillars

4. Internal structure and method of setting up

Study of the structures of pillars, wall showing the Raigo (the coming down of Amitabha to welcome the spirit of a believer), altar, ceiling, etc. on the first story, and how the three-storied pagoda was set up.

I have investigated Early-Modern-Age Buddhist pagodas by classifying them into four groups: 1) Tohoku and Kanto, 2) Chubu, 3) Kinki, and 4) Chugoku, Shikoku, and Kyushu districts. This paper is the fourth of the series, which completes the study for the time being.



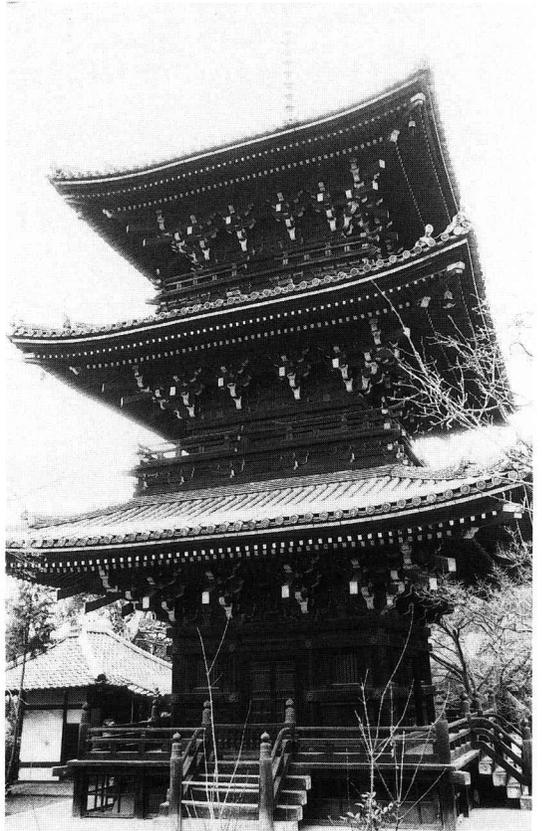
写1 徳源院三重塔



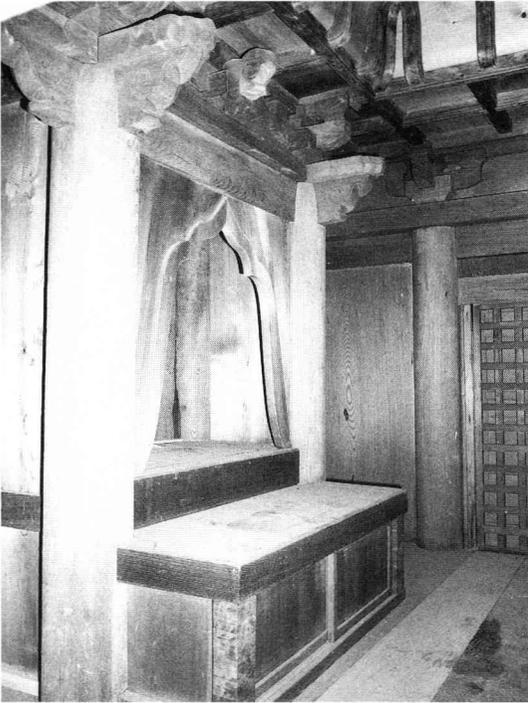
写3 清水寺子安塔



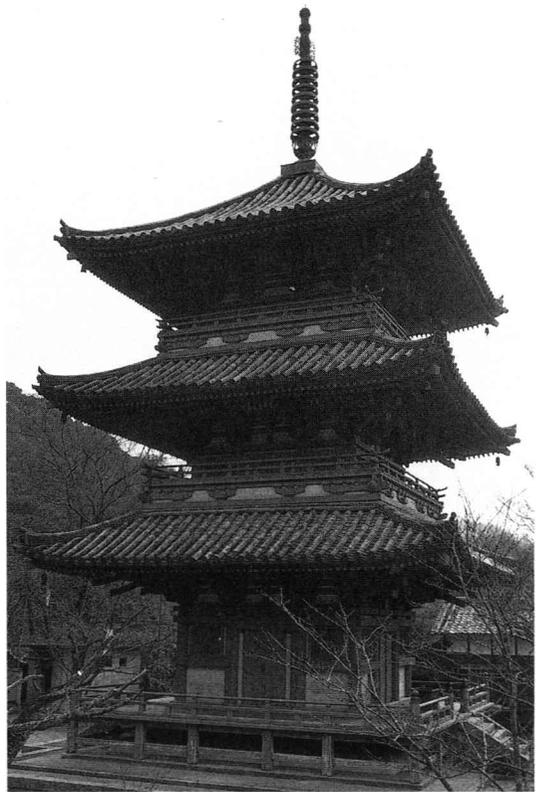
写2 金戒光明寺三重塔



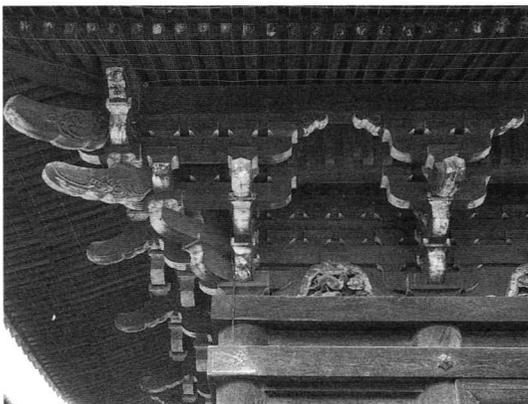
写4 真正極楽寺三重塔



写5 三室戸寺三重塔



写7 太山寺三重塔1



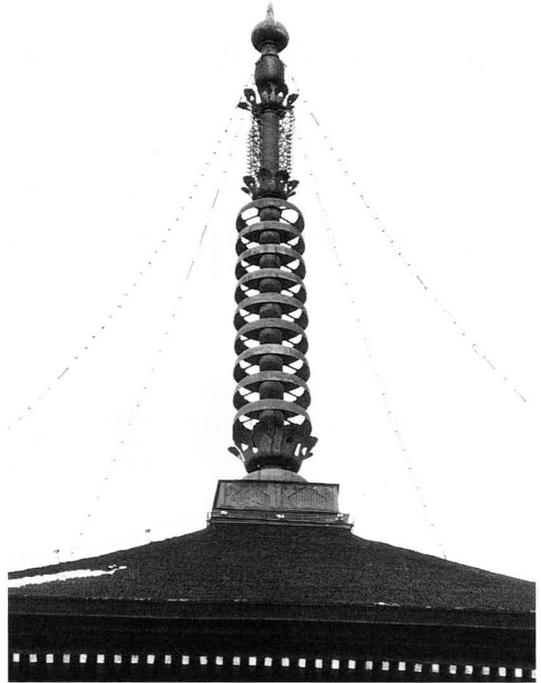
写6 水間寺三重塔



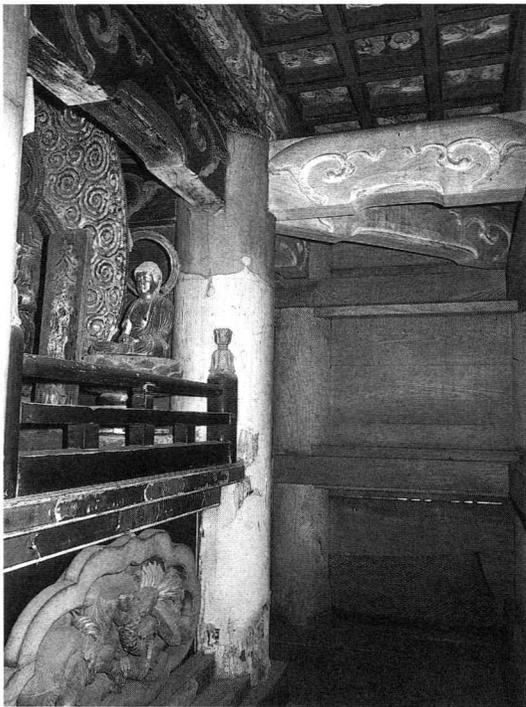
写8 太山寺三重塔2



写9 高源寺三重塔



写11 柏原八幡神社三重塔 1



写10 千光寺三重塔



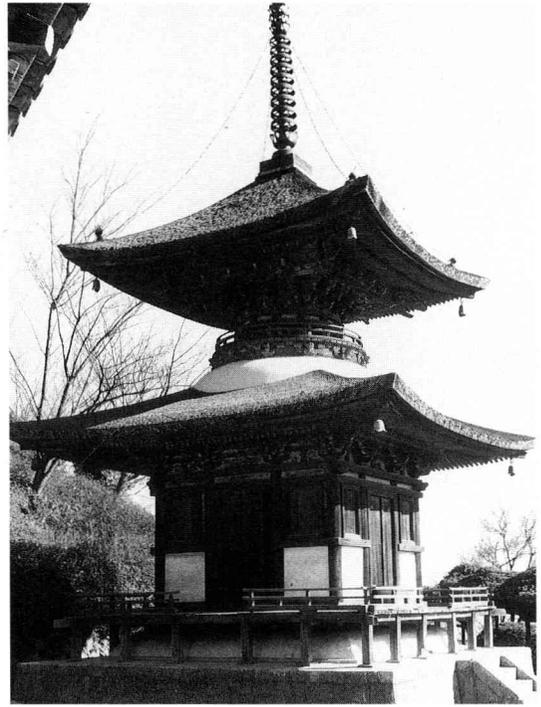
写12 柏原八幡神社三重塔 2



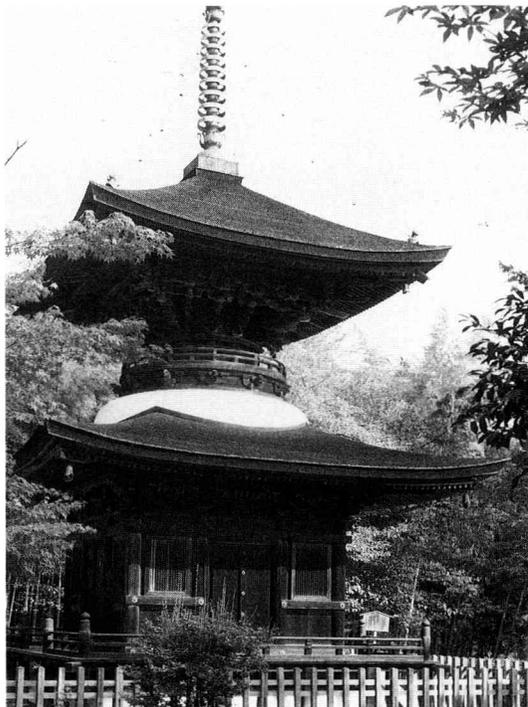
写13 道成寺三重塔



写14 瓊々杵神社多宝塔



写16 善峰寺多宝塔



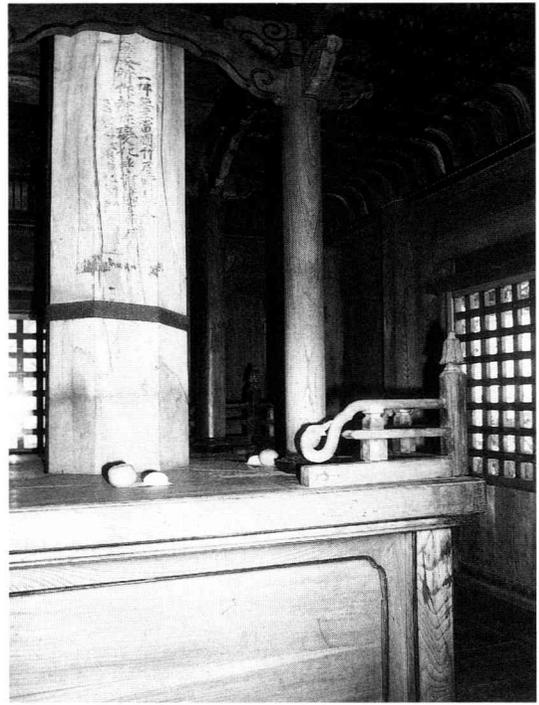
写15 常寂光寺多宝塔



写17 安楽寿院多宝塔



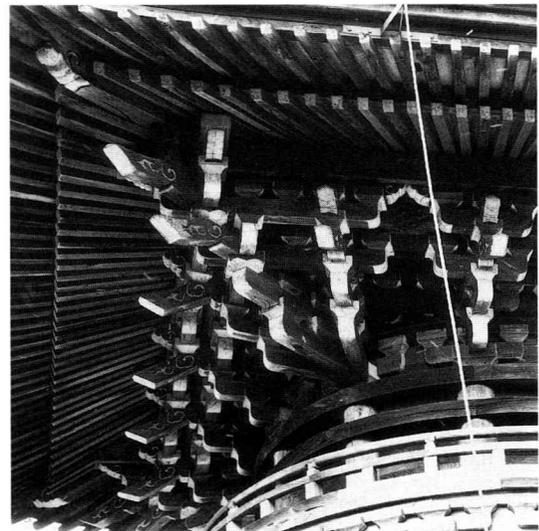
写18 本法寺多宝塔



写20 本隆寺多宝塔



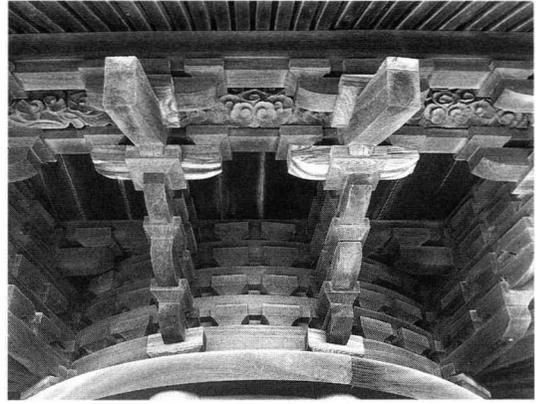
写19 清凉寺多宝塔



写21 穴太寺多宝塔



写22 勝鬘院多宝塔



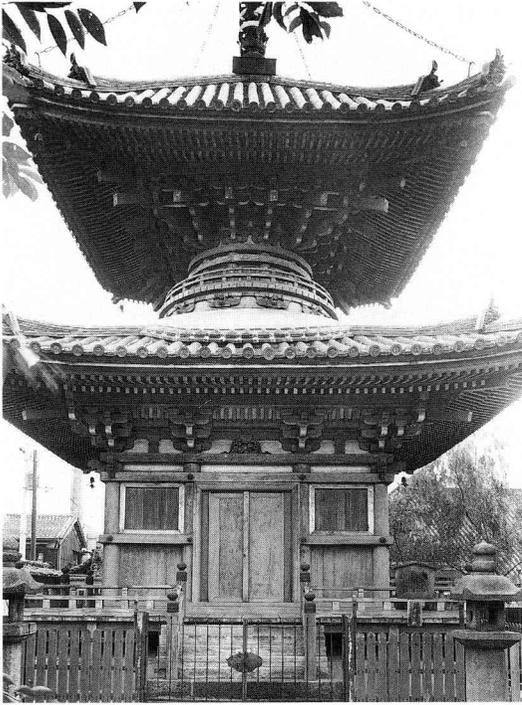
写24 叡福寺多宝塔 1



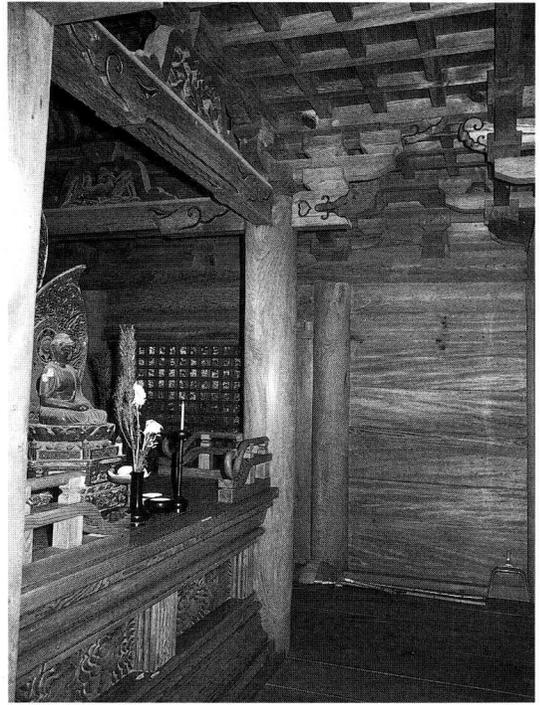
写23 藤田美術館多宝塔



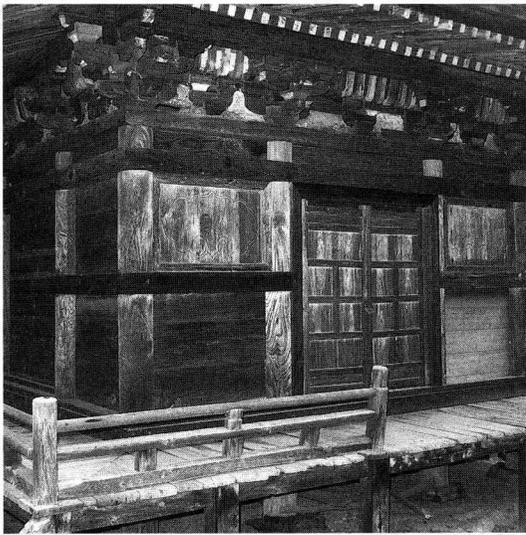
写25 叡福寺多宝塔 2



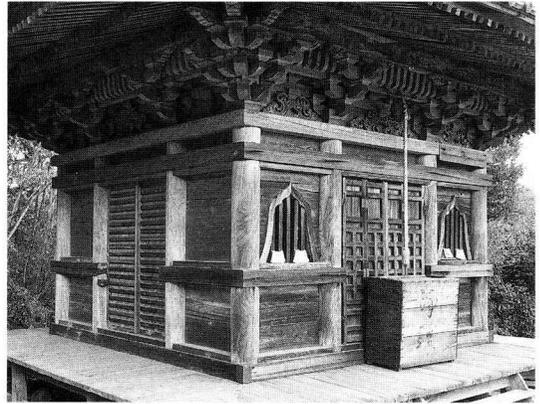
写26 長遠寺多宝塔



写28 蓮花寺多宝塔（三木市）



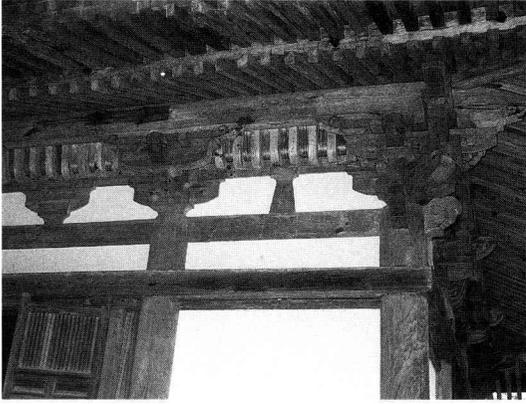
写27 奥山寺多宝塔



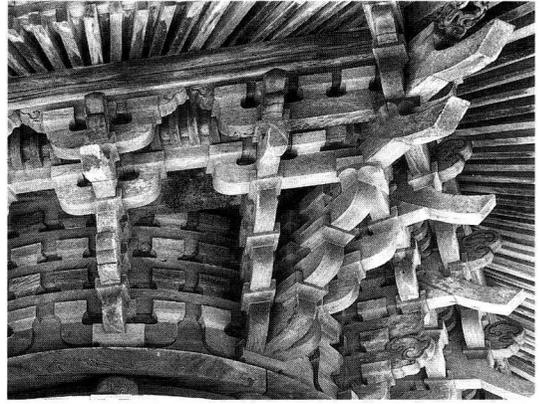
写29 蓮花寺多宝塔（三田市）



写30 蓮花寺多宝塔（洲本市）



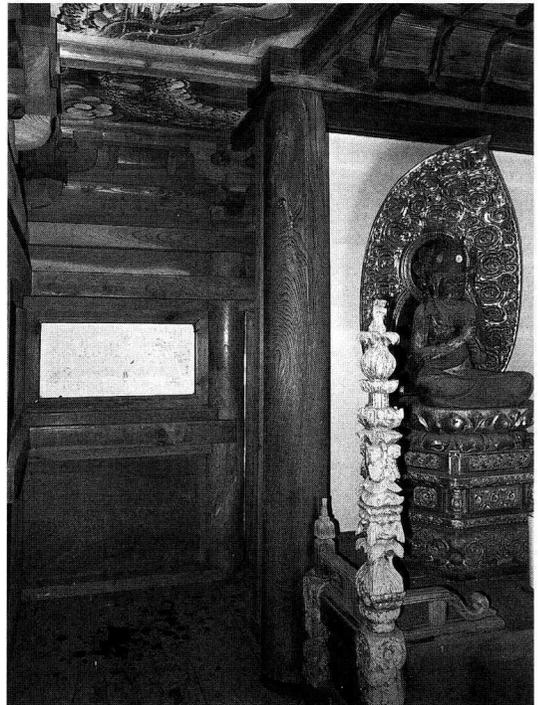
写31 朝光寺多宝塔



写33 温泉寺多宝塔 1



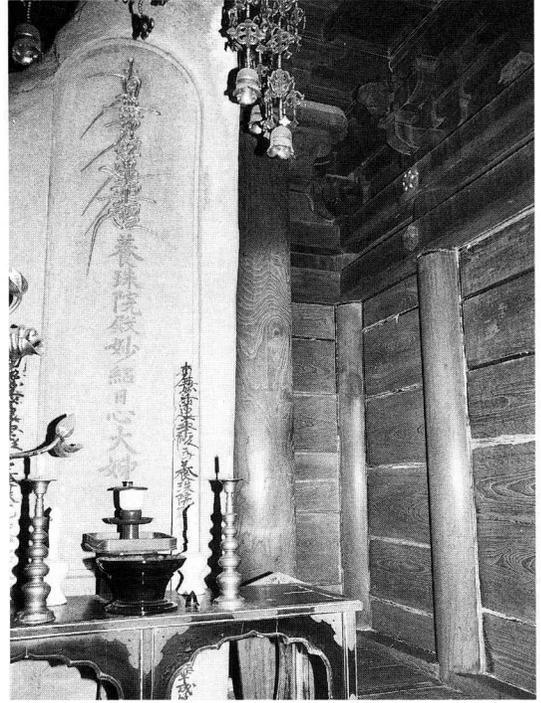
写32 莊嚴寺多宝塔



写34 温泉寺多宝塔 2



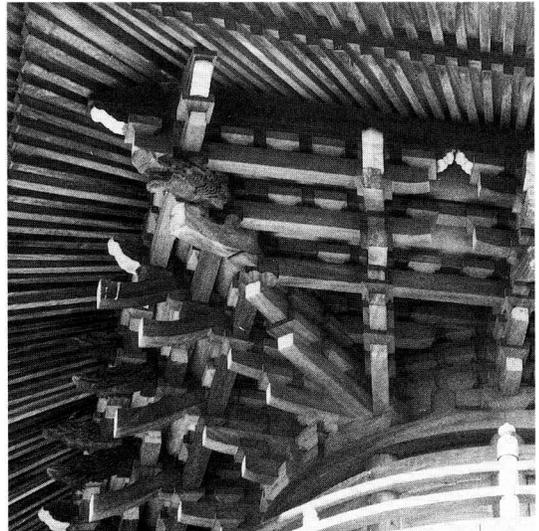
写35 井植山莊多宝塔



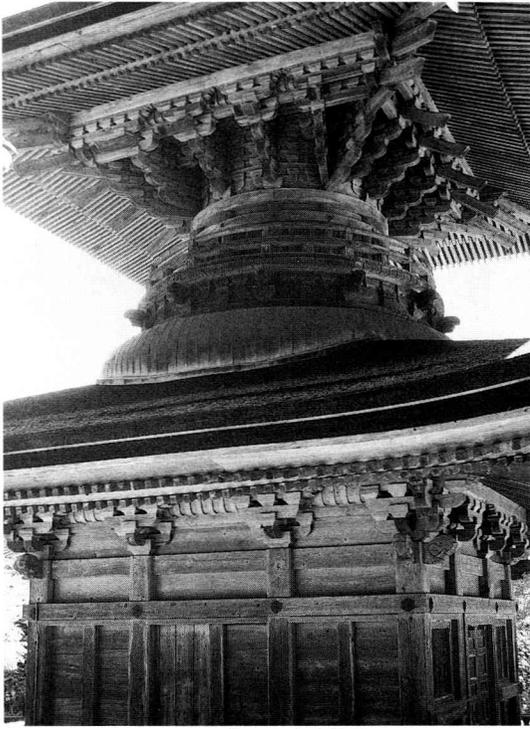
写37 海禪院多宝塔



写36 東南院多宝塔



写38 高山寺多宝塔



写39 金剛峯寺金輪塔



写41 金剛峯寺西塔 2



写40, 金剛峯寺西塔 1